

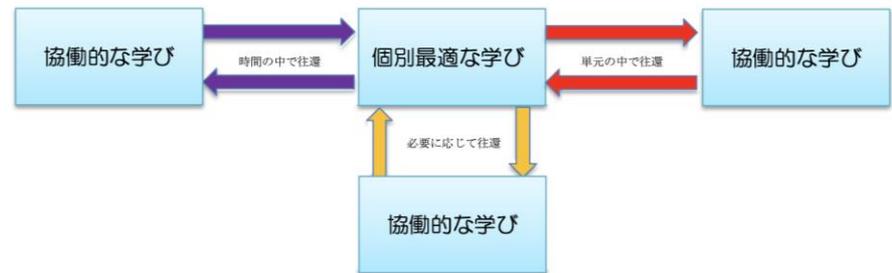
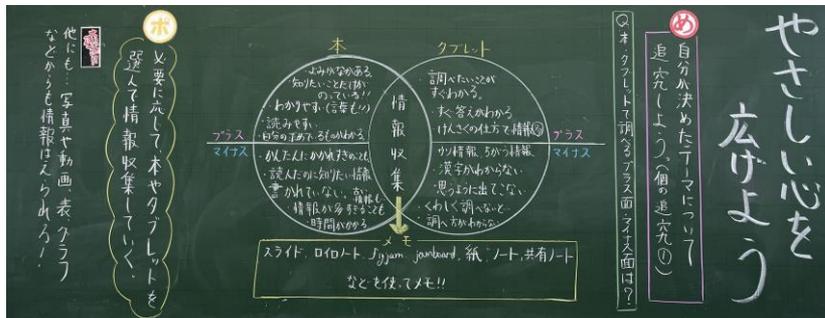
【取組内容①】個別最適な学びの場面での自分にあった学習方法・アプリケーションの選択



本校では、個別最適に学んだことを使って協働的な学びを充実させることも大切に考えています。4年生の社会科「地いきの発てんにつくた人々」を例に具体的に説明します。1・2時は導入や学習計画を立てる場面でした。3・4時（個別最適な学び）では、大原孫三郎に関係のある4つの働きについて追究する時間をとりました。それを、5時（協働的な学び）で全体で共有しました。

さらに、今度は6・7時（個別最適な学び）で、3～5時までの学びを踏まえて、4つの働きをすごいと思う順にランキングする活動を行いました。それを8時（協働的な学び）に全体で共有しました。そして、最終的には、「大原孫三郎の一番すごいところはどこか？」を話し合いました。

個別最適な学びを進める中で、子どもたちは、B-2で紹介したような選択肢の中から、自分に合った方法で情報を得たり、整理・分析したり、表現したりしていました。



子どもたちが自分に合った方法を見つける・選ぶためには、左上の写真のように、子どもたちがそれぞれの方法のメリット・デメリットを知っておく必要もあり、そのようなことを考える時間も確保する必要があります。また、いろいろな考えがあると思いますが、「協働的な学び」には、個別最適に学習を進める中での「協働的な学び」もありますし、単元全体として見たときに、1単位時間の授業すべてが「個別最適な学びの時間」または「協働的な学習の時間」として、単元の中で行き来するようなものもあると思います。個別最適に学んだことを協働的な学びにつなげていくところを今後も大切にしていきたいと本校では考えています。